

事業所における児童発達支援自己評価結果(公表)

討議年月日:令和5年12月13日

公表:令和6年2月10日

事業所名 チャイルドハート二丈

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		ご利用人数やお子様の特性を考慮し、スペースを広くとりたい時は机などを動かして工夫を行っている。
	2 職員の配置数は適切である	6		配置基準より多くの職員を配置している。見守りや支援の必要性の高い児童様ご利用される日にはさらにきめ細かい配置計画が必要である。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6		ご利用者様、1人ひとりの特性に合わせた環境を職員が共通認識を行い統一している。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		環境整備や清掃、消毒などにも力を入れている。ご利用者様の安全面を十分に考慮して、生活空間を用意していく。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		朝礼や終礼などで、情報交換を行い共通認識し、共有しております。職員間での物事の捉え方の違いを無くす為に話し合いの場を設ける。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		保護者様のお声を素直に聞き入れ、良い方向に改善している。事前に保護者様とも話し合いの場を持てるようにする。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		チャイルドハートのHPがあり、そちらに公開している。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6		第三者評価は行っておらず、今後検討していく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		FC本部や行政などの様々な研修に、それぞれ職員にあった研修へと参加する。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		定期的に、保護者様とお子様の声を聴いて、職員とも話し合いながら個別支援計画書を作成しております。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6		FC本部の統一のアセスメントツールを使用しております。お子様の状況に合わせて、アセスメントの頻度をあげて、個別支援計画書作成に活かす。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6		お子様の特性や状況を把握し、適切な計画書を作成しております。専門分野の意見なども踏まえてのご利用者様に合わせ無理なくスムーズに取り掛かれる計画書を考慮する
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		職員間で共通に認識し、考慮して支援を行っている。質の向上を図りながら、レベルアップし支援内容の引き出しを多くする。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	6		日々のリーダー制にしている。毎月の業務分担表を作成し、日々確認し業務をスムーズに行っている。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		その季節行事や地域での活動なども考慮している。ご利用者様の活動内容を、考えてもらい声を聞いてプログラムに入れていきます。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	6		各ご利用者様の現在の状況を配慮し、必要に応じて個別活動や集団活動などに分けて作成しております。職員、1人ひとりにも理解してもらえるような内容の工夫を行っています。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		毎朝、朝礼を行い、支援の内容や役割分担について確認する。定期的に支援内容のシュミレーションを入れていき、内容を検証しより良い支援を考慮する。
18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		業務終了前に、毎日終礼を行い、その日の支援を振り返り情報を交換しながらご利用者様のより良い支援に繋げております。	

	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		日々の支援記録は欠かさず行っております。お子様一人ひとりの活動記録を、その日関わった職員全員で記録し、情報共有を行う。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6		定期的に、各関係者とも話し合いの場を設けモニタリングの見直しを行っております。6ヶ月に1回は実施。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		公休やシフトの関係もありますが、相応しい者が対応している。管理者や児発管が、担当者会議に参加しております。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6		ご利用者様の状況に合わせて、各関係者と連携とらせてもらっております。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		必ずしも出来ていない。今後は利用開始時の児発管の業務として位置づけ、相互理解を図っていきます。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		必ずしも出来ていない。今後は利用開始時の児発管の業務として位置づけ、相互理解を図る。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1	お子様によっては必要な助言を受けている。ご案内を頂ければ研修にも参加している。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	2	お買物体験やおでかけ体験などの活動を通じて、間接的に障がいのないお子様と触れ合う機会があるが、保護者様の意見で交流を望まない方もいらっしゃいます。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	1	年に3回、参加させて頂いております。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		連絡帳や送迎時の面談などで情報共有を図り、理解し合い問題などの解決に繋げている。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6		ペアレントトレーニングの情報提供は行った、県や市から保護者向けの情報の案内を頂いた場合には基本的にそのまま情報を提供する。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		丁寧な説明を心がけ、今後も十分配慮を行いながら対応していく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		計画書はガイドラインに沿って作成し、保護者様への説明、同意を得ている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		送迎時やお迎え時などいつでもご相談いただける体制を整えている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	1	1年に一度は開催しているが、今後もっと連携を図っていきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		スタッフ間で共有させて頂き、対応を行っている。今後も迅速に対応できるよう心がけていく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		お子様のご様子や活動が、分かりやすく伝えられるようにしていく。

非常時等の対応	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6		個人情報は鍵付きの書庫に保管を行い、写真等も特定できないように考慮している。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		お子様の個々の特性を理解し、特性に合わせた支援や伝達を行い配慮しています。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	2	公共施設の利用など地域の方たちとのふれあいの場を提供していきます。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6		マニュアルに沿って今後も対応を行って行きます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		災害に備えた活動を計画し、避難場所の確認、避難の仕方を訓練しています。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6		ご利用前に確認させて頂き、スタッフ間での情報共有を行わせて頂いています。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1	研修を定期的に行い、医師の指示のもと対応させて頂いています。
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		職員間での情報共有、対応策を話し合っています。	
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		定期的に研修を行い、意識を常に出来るように努めています。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	1	該当児童はおられませんが、その際は事前に保護者様へ連絡し、関係機関との協議の末、計画書に記載していきます。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和5年12月13日

公表: 令和6年2月10日

事業所名 チャイルドハート二丈

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		ご利用人数やお子様の特性を考慮し、スペースを広くとりたい時は机などを動かして工夫を行っています。
	2	職員の配置数は適切である	6		配置基準より多くの職員を配置しています。見守りや支援の必要性の高い児童様が利用される日にはさらにきめ細かい配置計画が必要である。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6		ご利用者様、1人ひとりの特性に合わせた環境を職員が共通認識を行い統一しています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		朝礼や終礼などで、情報交換を行い共通認識し、共有しております。職員間での物事の捉え方の違いを無くす為に話し合いの場を設けています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		保護者様のお声を聞き、今後も改善に努めてまいります。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		チャイルドハートのHPがあり公開しております。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		6	現在行っておらず、今後検討を行って行きます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		FC本部や行政などの様々な研修に、それぞれ職員にあった研修へと参加する。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6		定期的に、保護者様とお子様の声を聴いて、職員とも話し合いながら個別支援計画書を作成しております。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6		FC本部の統一のアセスメントツールを使用しております。お子様の状況に合わせて、アセスメントの頻度をあげて、個別支援計画書作成に活かしていきます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		お子様の特性や状況を把握し、適切な計画書を作成しております。専門分野の意見なども踏まえてのご利用者様に合わせ無理なくスムーズに取り掛かる計画書を考慮していきます。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		職員間で共通に認識し、考慮して支援を行っている。質の向上を図りながら、レベルアップし支援内容の引き出しを多くしていきます。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6		日々のリーダー制にしている。毎月の業務分担表を作成し、日々確認し業務をスムーズに行っています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6		各ご利用者様の現在の状況を配慮し、必要に応じて個別活動や集団活動などに分けて作成しております。職員、1人ひとりにも理解してもらえるような内容の工夫を行っていきます。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		毎朝、朝礼を行い、支援の内容や役割分担について確認する。定期的に支援内容のシュミレーションを入れていき、内容を検証しより良い支援を考慮しています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		業務終了前に、毎日終礼を行い、その日の支援を振り返り情報を交換しながらご利用者様のより良い支援に繋げております。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		日々の支援記録は欠かさず行っております。お子様一人ひとりの活動記録を、その日関わった職員全員で記録し、情報共有を行ってまいります。

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6		定期的に、各関係者とも話し合いの場を設けモニタリングの見直しを行っております。6ヶ月に1回は実施しています。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6		ガイドラインに沿って支援計画、活動の組み合わせを行っています。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		公休やシフトの関係もありますが、相応しい者が対応している。管理者や児発管が、担当者会議に参加しております。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6		ご利用者様の状況に合わせて、各関係者と連携とらせてもらっております。またお迎え時の変更など保護者様、学校と調整を行っております。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6		該当児童なし、
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	1	必ずしも出来ていない。今後は利用開始時の児発管の業務として位置づけ、相互理解を図っていきます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6		必ずしも出来ていない。今後は利用開始時の児発管の業務として位置づけ、相互理解を図っていきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6		研修の機会には参加させて頂き、スキルアップに努めています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6		児童館での活動の中で一緒に活動できる機会を検討しています。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6		年に3回、参加させて頂いております。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		連絡帳や送迎時の面談などで情報共有を図り、理解し合い問題などの解決に繋げています。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6		ペアレントトレーニングの情報提供は行った、県や市から保護者向けの情報の案内を頂いた場合には基本的にそのまま情報を提供しています。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		丁寧な説明を心がけ、今後も十分配慮を行いながら対応していきます
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		丁寧な説明を心がけ、今後も十分配慮を行いながら対応していきます
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	1	1年に一度は開催しているが今後ももっと連携を図っていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6		スタッフ間で共有させて頂き、対応を行っている。今後も迅速に対応できるよう心がけていきます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		お子様のご様子や活動が分かりやすく伝えられるようにしていきます。
	35	個人情報に十分注意している	6		個人情報は鍵付きの書庫に保管を行い、写真等も特定できないように考慮しています。

	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	お子様の個々の特性を理解し、特性に合わせた支援や伝達を行い配慮しています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	1 公共施設の利用など地域の方たちとのふれあいの場を提供していきます。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	マニュアルに沿って今後も対応を行ってまいります。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	風水害、火災、地震災害想定した避難を計画し、避難場所の確認、避難の仕方を訓練しています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	定期的に研修を実施し、スタッフ全員で意識を高く持てるようにしています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	該当児童はおられません。その際は事前に保護者様へ連絡し、関係機関との協議の末、計画書に記載していきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	ご利用前に確認させて頂き、スタッフ間での情報共有を行わせて頂いています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	職員間での情報共有、対応策を話し合っています。